

## 令和2年度版 改善計画

学校名：甲府市立北西中学校

No.	項目	現状と課題	R3年度に目指すべき状態	①R2年度に実施する内容 ②R3年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	○職員会議提案事項については、事前に企画会議で検討し、職員会議の時間短縮を図る。▲提案資料がなかなか仕上がらない。	・会議参加者が資料を事前に読んでおくことで能率的に会議を終える。	①企画会議に資料を提出する。企画会議で事前に改善点のみ検討し、職員会議は短時間で議事が終わることを徹底する。 ②電子会議を含めたペーパーレス化を検討する。	
2	学校行事の負担軽減	○行事が終わってすぐに職員による評価を実施し、見直しや改善を進めている。	・行事の精選と内容の見直しが目的に即して行われている。	①日程や内容の見直しを含め、学期ごとの職員会議で随時検討する。 ②取り組み期間の短縮なども含め、行事の精選を進める。	
3	校内組織の見直し	○電子データで次の分掌への引き継ぎを行っている。	・校務分掌のバディシステム化が定着している。	①校務外接続ドライブのフォルダ構成内容の精選。 ②分掌の主担当・副担当を配置し、校務の協働処理体制を推進する。	
4	業務の効率化	○職員の業務の効率化のため、日直日誌に退勤時間を記載している。▲遅くまで残る職員が固定化している。	・月ごとに職員の完全下校時刻を設定する	①勤務時間の管理を徹底する。 ②校務システムを活用して、職員の勤務時間への意識改革を進める。	
5	部活動の負担軽減	○「きずなの日」には諸活動を設定しないことを徹底している。 ○部活動月間計画を月末に確認し、負担軽減を図っている。 ▲生徒数に比べ部数が多く、複数顧問配置が難しい。	・教育内大会以外の活動(社会体育に移行できる協会主催の大会等)については、適宜移行する。 ・P総会や部毎の保護者会等の機会を理解を求める。	①部の設置数や存続について検討し、複数顧問の配置に向け適切な部活動数への移行を開始する。 ②一つの部活動に複数顧問が配置できるように進めていく。	
6	地域人材の活用	○現在、教員0Bの3名の先生方が教育支援ボランティアとして1日2時間ずつ、学習支援を行っている。	・学生よる教員支援ボランティアを含め、平日すべての日にボランティアが活用できる体制にする。	①学習支援や部活動支援について、学生の教育支援ボランティアの活用を進める。 ②さらにボランティアを行ってくれる方を増やし、一人当たりの負担軽減を進めて、参加しやすい環境を作っていく。	
7	バディシステム化(学校独自の項目)	・若手の教師の増加。▲職員数が少ないために、休みを迷惑がかかると感じてなかなか行使できない状況である。	・バディシステム化による補助体制の構築。	①経験の少ない先生方への手助けを積極的に進める。同僚性の上でお互いがお互いの生活をほんの少し助けていこうという意識を持つ。 ②バディにより学年を超えた年休取得等のシステム化。	
8	週に1度の定時退勤(学校独自の項目)	○定時退勤日を設けたが、提出物処理や保護者対応等で残る職員も多くなかなか徹底しない。	・緊急時以外は20時まですべての職員が退勤する。	①週に1度、18時までで退勤する取り組みを継続していく。早く帰ることを経験してもらい職員意識の変化をめざす。 ②定時退勤日の拡大を目指す。	

●R2年度における「きずなの日」の年間回数(予定) 23 回

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

